

町民一人ひとりが地域のことを考え、みんなで地域の持つ力を向上させることで、幸せや夢を実現できる、住みよい地域社会づくりにつながります。

住みよい地域社会づくりにつながる

地域のかかわりの中で豊かな暮らしを実感できる

すすんで地域づくり活動に取り組むことで、地域社会の役に立っているという満足感を得ることができ、また、「自分たちのまちを自分たちで作っていく」という喜びや達成感を実感できます。

【協働参画の効果】

住民や地域団体、NPOなどが力を発揮することで、行政だけでは難しかった様々な課題に対するきめ細やかで柔軟な対応や地域の特性・ニーズに応じた新しいサービスの提供が可能になります。

サービスの幅が広がる

行政のあり方が見直される

住民と行政がお互いに「協働」参画意識を持つことで、行政の考え方やしくみが改善され、施策のスムーズな形成・実施をはじめ、町民の視点に立った行政サービスの提供につながります。

住民と行政がお互いの特性や違いを認めて触発し合い、対等なパートナーシップに基づく確かな信頼関係が深まります。

住民と行政の信頼関係が深まる



おはなしの会「しゃぼんだま」 【活動内容】 読み聞かせ活動

毎月1回、千畑交流センターで小学校低学年までの子どもたちを対象にした読み聞かせを行っています。また、めだか児童クラブや千屋小学校にも出向いて活動しています。

おはなしの会「しゃぼんだま」からのお知らせ

クリスマス会を開催します。みなさん、遊びにきてね。
日時●12月18日(土) 午前10時～午前11時
会場●千畑交流センター1階 第1和室
※広報美郷お知らせ版11月15日号3ページに掲載している12月11日のお話し会を、18日のクリスマス会に変更します。12月11日のお話し会はありませんのでご注意ください。

せんはた松並コール 【活動内容】 コーラス



佐藤定子さん

コーラスグループ「せんはた松並コール」のみなさんは生涯学習活動のかたわら、施設を訪問して歌を届けるボランティア活動を行ってきました。ボランティア活動を通じて感じたことを、代表の佐藤定子さんからお話しいただきました。

「施設から声を掛けていただいて、コーラスを披露させていただいたことがあります。そこでは、施設利用者の方が私たちと一緒に歌うなど、とても楽しんでくれました。喜んでいただいている表情を見ると「来て良かったなあ」と思い、口ずさみながら歌を聞いている姿を見ると、訪問活動に喜びを感じます。そこにいる人たちと気持ちをひとつにして何かをすることが交流であり、大事なことなのかなと思いました。自分が働いていたころは、勤務先と家との往復の毎日、地域の方と交流できる機会がほとんどありませんでした。それが、退職してから参加したコーラスの活動を通じて、幅広く、様々な方と交流できたことを嬉しく思っています。」

平成2年に活動を始め、今年で結成20周年を迎えた「せんはた松並コール」。11月7日には美郷町公民館で20周年を記念する無料コンサートを開催し、温かいコーラスの響きで来場者を楽しませました。佐藤代表は「今後はこれまで以上に訪問活動を行っていければ、と思っています」と今後の活動について抱負を語ってくださいました。



協働参画のまちづくり

みんなのまちはみんなの力で

美郷町では、平成20年3月に『協働参画のまちづくりに関する基本的な方針』を作成しました。これによって、住民が支えあい、助けあう気風の醸成や行政と地域住民が役割分担をしつつ共に協力・補完する関係の構築、地域づくり活動の活性化などを目指しています。

「協働」参画社会ってどんな社会？

「協働」とは、地域の「公共的」な課題などの同じ目的のためにみんなが協力し、共に力を合わせて行動することです。

一般的に、「公共的」な課題の解決は行政が行っています。しかし、行政が「公共的」な課題を全て解決できているわけではありません。町内会や行政区、自主防災組織の活動など、地域住民みんなに関係のある「公共的」な事柄を自分たちの手で行っている場合もあります。これらの活動は地域みんなのために行っているもので、「私的」な活動でもありません。このように、「私的」な活動ではなく、行政の公共サービスでもないものが、「協働」参画社会活動です。

「協働」参画社会と言われると、とても難しいことのように思えますが、実は知らないうちにその一員として活動しているものも数多くあるのです。

なぜ、今、「協働」参画社会に取り組むのか

多くの人が、そうと意識しないまま一翼を担ってきた「協働」参画社会。これまでの生活の中で、ごく自然に行われてきた側面もあるこれらの活動に、なぜ今改めて力を入れようとしているのでしょうか。

現在は新たな価値観が生まれ、生活様式も多様化し、私たちを取り巻く環境が大きく変化しています。このような状況で行政が提供できる一般的なサービスでは、多様化した個人の希望・要望を隅々まで満たすことは難しくなりつつあります。また、地方分権の進展とともに、市町村には自らの力で物事を決定し、創意工夫してそれぞれの地域を作ることが求められています。限られた財源で地域を作るには、地域に暮らす人々の力を借りなければなりません。

「私的」な範囲を超えているが、行政が行う「公共的」な域までは及ばない身近な課題を解決できる存在として、地域に暮らす人々が作る「協働」参画社会に期待が寄せられているのです。